会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第１回高松市下水道事業運営検討委員会
開催日時	令和６年５月３１日（金）　午後１時～午後２時３０分
開催場所	高松市防災合同庁舎５階　５０２会議室
議　題	（１）　会長及び副会長の選任について （２）　高松市下水道事業の現状と課題について （３）　高松市下水道事業基本計画の中間見直し等について
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	－
出席委員	１１人 今岡委員、末永委員（副会長）、寺尾委員（会長）、鍋嶋委員、高橋委員、松浦委員、安部委員、藤原委員、山本委員、久保委員、土居委員
傍聴者	０人（定員１０人）
担当課及び連絡先	都市整備局下水道部下水道経営課 ０８７－８３９－２７６５

会議経過及び会議結果
開会 **市長挨拶** **議題　（１）　会長及び副会長の選任について** 高松市下水道事業運営検討委員会設置要綱第５条第１項の規定により、会長及び副会長が選任された。 会長　寺尾委員 副会長　末永委員 以後、同設置要綱第６条第１項の規定により、寺尾会長が議長を務める。 **議題　（２）　高松市下水道事業の現状と課題について** 事務局から説明【資料１】 （会　　長）今後議論を進めていく上で、ベースとなる重要な認識を説明いただいた。分からないところや、質問、意見等はあるか。 （委　　員）老朽化や環境問題など、下水道事業の課題が多くある中で、優先順位をつけてやらないといけない。優先順位について、どういう方向性で考えているのか聞きたい。

（事 務 局）まずは、下水道自体を継続して使用できることが一番と考えている。その中で、事業自体を継続しながら、耐震化や汚水処理、浸水対策など様々な課題に取り組んでいくが、一概にどの事業が先とかではなく、それぞれの事業の中で優先順位をつけながらやっていきつつ、さらに新たな課題が出てくる状況である。

（委　　員）老朽化対策や災害対策等、下水道事業は市民にとって必要なので、使えなくなると非常に影響が大きい。今後、環境に配慮して、スピード感をもって対策にあたっていただきたい。そういう意味でも、優先順位が大事。課題を整理し、持続可能な安心して生活できる環境を作っていただきたい。

（委　　員）資料４ページの下水道事業計画区域について、整備が終わっている区域と、そうでない区域は、どこを見れば分かるのか。

（事 務 局）４ページに示しているのは、整備しますという計画の区域を示していて、この資料で整備済の区域とそうでない区域は示せていない。２ページに示してあるとおり、計画区域約 6,500ha のうち、約 5,500ha が整備済で、計画の約 84%が整備されている。残り約 16%の中には、私道やほとんど人が住んでいないような場所も含まれているので、住居の状況等もあわせながら整備している状況である。

（委　　員）水道は広域化ということで、令和１０年度に水道料金の統一を図るという動きがある。下水道は、広域化に対して、今後どのように対応していくのか。

（事 務 局）下水道の広域化・共同化について、BCP という災害時における業務継続計画については、香川県の下水処理場を持っている自治体同士で連携し、災害時に業務継続できるようにする取組を行う話があるが、水道のように事業自体を１つにする話ではない。また、下水道使用料は、水道料金が統一料金になった時、その料金と下水道使用料が連動してということではなく、あくまでも水道の使用量に対して設定されることになろうかと思う。

（委　　員）下水道事業計画区域については、全ての地区に下水道が整備されるわけではなく、隅々まで下水道を入れると、経費の問題もあることから、平成２８年度以降は区域を広げないという意味であり、区域を広げるということは、ひいては下水道使用料にも関わってくると思う。

議題　（３）　高松市下水道事業基本計画の中間見直し等について

事務局から説明【資料２】

（委　　員）８ページの肥料化について、汚泥肥料というのは、農家が普通に肥料として使うもので間違いないか。

（事 務 局）そのとおりである。ただ、肥料にもいろいろ種類があり、その中で汚泥を活用できる肥料化を目指していて、野菜や花等に必要な養分や成分を満たすことができるかどうかも含めながら考えていきたい。

（委　　員）実際に農家の方々が使うに当たり、元が汚泥だったものを肥料として使うことに抵抗があると考えられるので、十分な安全管理等が満たせているということを、市民に積極的に情報発信することが重要になると思う。

（委　　員）５ページの下水道全体計画について、今後下水道使用料が上がっていくとした場合、合併処理浄化槽の維持管理の方が安い、下水道が整備されている地域の方が

高いといった、不公平感が課題になってくると思うが、それについて検討していることはあるか。

（事 務 局）下水道全体計画の見直しについては、現在の事業計画区域を平成２８年度以降は拡大しない予定にしているところを、将来の人口予測等に基づいて、地域差や居住状況、将来的には合併処理浄化槽の方が良いのか、下水道の方が良いのかというのを改めて確認した上で見直しをしていくものである。一方、下水道使用料については、現在、下水道使用区域の中での、使用料収入、下水道の維持管理等に係る経費等も含めて勘定し、耐震化や整備費用については、今後も継続して国に補助金を要望し、極力、国庫補助金等の財源を最大限活用して、下水道使用者皆様へ過剰な負担をかけないように運用していく。耐震化等に要する費用は今以上に必要になってくるとは思うが、適切に維持管理していく中で、一概に下水道の方が高くなるとは言えない。現在は、合併処理浄化槽の維持管理費より、下水道を使用する方が一般的には安いと言われているが、今後、それが逆転するかどうかは、今の時点では分かりかねる。

（委　　員）香川県は合併処理浄化槽の法定検査や清掃があまり徹底されていない。現状、法律どおりに点検をしていなくても、さほど害がないのが現実で、不公平感が強い。また、高松市は浄化槽とくみ取りトイレの汚泥の投入料金が無料だが、近隣の坂出市等は、収集運搬だけでなく、投入料金を収集運搬業者から徴収しているので、高松市もその料金を徴収する方法もあるのではないか。将来的に下水道と合併処理浄化槽で料金に不公平感が出るのであれば、そういった案もあるのではと個人的に思った。また、耐震化等で国庫補助金を活用しているという話で、補助金をもらうためには、国の方針としてウォーターPPP をやらないといけない。ウォーターPPP について、次回情報提供いただきたい。

（事 務 局）まず、高松市内の浄化槽とくみ取り便所の汚泥を引き抜いたものは、朝日町にある衛生センターに運んで処理する流れになっている。そこに運ばれた汚泥は管きょを通って東部下水処理場に流れて、そこで、汚泥の量に応じて、下水道事業としては、本市の環境局から費用を徴収している。ウォーターPPP に関しては、意見を参考にさせていただき、今後の会議で説明させていただく。

（委　　員）全体的な話として、言葉が非常に難しいので、もう少し分かりやすい言葉で伝えていただきたい。

（会　　長）できるだけ配慮して進めていきたい。

（委　　員）老朽化という言葉が多く出てきているが、老朽化に対する指標があまり見えない。例えば、整備面積が 5,500ha、そのうち令和１１年まででどの程度修繕の予定があるのか等の指標があると、市民もこういうところにお金がかかるのか、といった見える化になると感じた。

（事 務 局）いただいた意見を参考に、検討してまいりたい。

（委　　員）初めて聞く言葉が多く、できたらもう少し分かりやすい言葉で説明してほしい。また、施設の老朽化がすごく気になる。老朽化対策にはかなりお金がかかると思うので、それに必要な費用を中間見直しに入れていただけたらと思う。

（委　　員）水道使用量から下水道使用料を算出しているので、井戸水を使用し、下水に流す

場合は、下水道使用料にカウントされないのか。

（委　　員）市内全体に下水道が整備される方向に向かっていると思っていたが、先程の説明を聞いて、計画区域外は今後整備されない方向であると分かった。普段生活していて、あまりこのようなことは聞かないので、もう少し情報をいただきたい。

（事 務 局）新しく下水道を使うときは、家庭内設備の申請をしていただく。その中で、水道以外の井戸水がある場合はそれを書いていただく。また、大量に使う場合は井戸にメーターをつける場合や、何人が使うかで井戸水の水量を認定する制度もあるので、いずれにしても、水道プラス井戸水の使用量で、下水道使用料を徴収させていただいている。

（委　　員）自分の住んでいる地区が下水道の計画区域に入っていないことを知らなかった。事前に、行政から計画区域に入っていないので、浄化槽業者の話を聞いてあげてくださいといったPRをしてくれたら、大変助かるし、行政の力にもなれる。

（委　　員）下水汚泥の資源化に関して、処理方法は活性汚泥法か。

（事 務 局）庵治浄化センター以外の３処理場は活性汚泥法で、庵治浄化センターはＯＤ法（オキシディーションディッチ法）である。

（委　　員）規模に応じて処理方法を変えているということだが、返送汚泥は出ているか。

（事 務 局）返送して回している。最終的には、脱水をかけたりしてセメント化して、処理の委託場へ出して処理している。

（委　　員）コンポストなり、再資源化しているのか。

（事 務 局）そのとおりである。

（事 務 局）１回目の会合ということで、下水道を取り巻く状況等を説明させていただいた。会を通して感じたことは、資料が専門的すぎて非常に分かりにくいところもあって、もう少し分かりやすく説明していく必要があると感じたので、次回から修正していく。今年については、下水道事業基本計画の中間見直しを軸として、指標の見直しや下水道使用料の話を審議いただくことになる。審議に必要な資料も分かりやすく提示して、次回以降の会議で議論いただきたい。

閉会

以上